

## 論文

英語の歌の指導を通じた音楽科と英語科の連携  
—中学校課程を中心として—

○清永千裕\*1 清永克己\*2

キーワード：英語の歌 音楽科と英語科の連携 歌唱指導 曲想の理解 表現力

## 1 はじめに

気持ちが高ぶっている時、また落ち込んでいる時、また特別なことのない時、人は意識的に、あるいは無意識の中で歌を口ずさんでいる。歌を歌うことは、私たちの日常生活の中で自然な行動である。その一方で音程が外れていたり、リズムが不安定であったりすると不快な気持ちになる。歌を歌うことは、普段の生活の中でありふれた行為であるが、きちんとした歌唱指導は必要である。

学校教育において歌唱指導は、当然音楽科が担っている。山田は、「歌うことは、音楽を考え、音楽を理解し、あるいは音楽に親しみ、音楽を作り出すための基本的能力と言われ、しかも歌唱は鑑賞を深める第一の手段であるとも言われ、鑑賞学習のためにも重要な位置を占めるものと言える」と書いている<sup>1)</sup>。また、閨間は、「言葉と音楽が結びついて、他の楽器で話せない音楽表現を、自らの身体に最も深く直結する表現方法によって自己表現できる箇所は、人間にとって本能的とさえ言える表現の手段である。加えて歌唱は、器楽、創作、鑑賞の活動にも作用し、その支えになることによって、音楽学習の中心的な位置を占めると言ってもよい」と述べている<sup>2)</sup>。そして、「歌唱は音楽教育の中心的な位置にあり、歌唱指導の重要性が認められる<sup>3)</sup>」と付け加えている。音楽の授業でしっかりと基礎を身に付けさせることは、とても大切なことであり、学習者のその後の生活に与える影響は大きい。

音楽科の標準授業時間数は、表1のように平成10年以降、週1時間程度である。学校行事や祝日が授業の

曜日と重なれば、2週間、3週間と授業間隔が空いてしまう。授業時間数が少ないことで、生徒にそれまでの期間に記憶から薄れていった学習内容を思い出させ、そして新しい学習事項の指導に取り掛かるまでに限られた時間を費やしているのが現状である。

表1 必修科目の週当たりの授業時間数の変遷

	第1学年	第2学年	第3学年	全学年
昭和52年	2	2	1	5
平成元年	2	1~2	1	4~5
平成10年	1.5	1	1	3.5
平成15年 一部改正	1.5	1	1	3.5
平成20年	1.5	1	1	3.5

文部科学省が定める平成29年公示の学習指導要領の中学校「音楽」の目標は、次のように述べられている<sup>4)</sup>。

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構成や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必

\*1 東京二期会

\*2 至誠館大学 現代社会学部

要な技能を身につけるようにする。

(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽の良さや美しさを味わって聴くことができるようになる。

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

日本だけでなく、世界各国、地域の伝統的音楽から現代音楽まで、幅広い音楽を「聴く」だけでなく、自分たちで楽器を演奏したり、また歌を歌ったりして「表現」し、音楽に親しみを覚え、楽しみながら音楽の良さを理解し、豊かな情操を培うことを目標に挙げている。さらに、楽譜に書き起こされる音楽だけでなく、日常生活や社会の中で聞こえてくる音、いわゆる雑音にも音程や強弱、長短、リズムがあり、それらの音を意識することも音楽を楽しむことに通じると言及している所にも注目したい。

また、中学校課程の音楽科では、歌唱教材では次のものを取り扱うようにしている<sup>5)</sup>。

#### ア 歌唱教材

(ア) 我が国及び諸外国の様々な音楽のうち、指導のねらいに照らして適切で、生徒にとって親しみが持てたり意欲が高められたり、生活や社会において音楽が果たしている役割を感じ取れたりできるもの。

音楽の教科書、教育出版社や教育芸術社では、ドイツ語の歌曲では文豪ゲーテの詩にシューベルトが曲をつけた「魔王」や「野ばら」が、イタリア歌曲では「帰れソレントへ」や「サンタルチア」、「オ ソーレ ミオ」「フニクリ フニクラ」が、教材として扱われている。しかし、「魔王」は鑑賞が中心であり、「野ばら」や「帰れソレントへ」や「サンタルチア」などの曲は

原語で鑑賞するが、多くの場合歌う時は日本語訳の歌詞で歌うように構成されている。

英語の歌も音楽の教科書で、教材として扱われている。現在使われている平成28年度版『中学音楽2・3年下』の教育出版社では「Top of the world」を、教育芸術社では「yesterday」を、題材に取り上げている<sup>註1</sup>。教育芸術社が出している年間授業計画を参考にすると「帰れソレントへ」と「yesterday」の2曲は、3年生の1学期に学習し、配分された時間は3時間である<sup>6)</sup>。「帰れソレントへ」は、イタリア語で歌うのではなく、日本語訳での歌唱であり、歌詞指導にはそれほど多くの時間をかける必要はない。日本語訳の詩は原語に劣らない曲想を伴っているが、やはり原語から伝わってくる響きには敵わない。一方、英語の歌は基本的に英語で歌う事を前提とした教科書構成になっている。従って、歌詞の説明では、単語の意味や発音、さらに表現力を高めるために英文の文法事項の説明も必要となってくる。限られた時間内で指導するというのは、現実的に厳しいところがある。そこで、英語の歌を指導するのに音楽科と英語科で協働して指導できないかと考え、研究を行った。

#### 2. 学習指導要領における外国語の歌の位置付け

学習指導要領の外国語で「3. 指導計画の作成と内容の扱い」に下記の文章が見られる。英語科もこれに準じている<sup>7)</sup>。

指導計画の作成と内容の取扱い(1) オ 言語活動で扱う題材は、生徒の関心・興味にあったものとし、国語科や理科、音楽科など、他の教科で学習したことを活用し、学校行事で扱う内容と関連つけたりするなど工夫すること。

中学校の英語教科書では、「英語の歌」は付録扱いであり、学習単元という位置づけではない。従って、特

に学習指導をするための時間に組み込まれていない。

### 3. 英語の歌に関する研究

小学校では外国語教育の指導で英語の歌が歌われている。小学校での外国語教育は、1998年に学習指導要領が改訂され、「総合的な学習時間」が新設され、国際理解教育の中で行われた。2008年度の調査では、97%の小学校で何らかの外国語に関わる活動を実施し、そして2011年度から5年生、6年生で外国語活動が必修化された。2020年度から3年生、4年生では『外国語活動』であり、5年生、6年では『外国語』という教科として扱われることになった。

高橋は外国語活動・外国語科と音楽科の教科横断的な視野から「英語の歌」の指導について研究を行っている<sup>8)</sup>。それによると(1)英語はスペル表記とカタカナ表記がされている、(2)2020年度の教科書に載っている英語の歌は発音が小学生には難しいものもある、と指摘している。そして指導者が英語の歌を英語らしく歌わせるには「言語の特性」や「発音やリズム」を学習者に正しく理解させることが必要だと述べている。丸山は、英語のリズムの単位として音節に注目し、音符と発音との関係について研究を行っている<sup>9)</sup>。西尾は、英語の歌の学習を通して、英語の音の弱化や同化、脱落、連結などといった自然の発話で生じる音の変化やリズムを習得することができるかと研究発表している<sup>10)</sup>。小学校課程の英語の歌に関する研究では、英語らしく歌うにはどのような指導を行えばいいのかを対象としたものが多く見られた。

中学校課程以降の英語の歌の活用についての研究では、その意義と課題を滝口が、国立情報学研究所が運営する学術データベース CiNii (Citation Information by NII) で「英語教育」「英語の歌」で検索してヒットした179件を分析している<sup>11)</sup>。英語の歌を扱うことに触れているのは、その中の10編ほどであり、「総じて各部分では展開されながら、英語の歌を英語の授業に活用するにあたって総合的にまとまったものはない」と

述べている。甲斐は、2018年に神奈川県内の公立高校1年生157人を対象に英語の歌の学習効果についてアンケート調査を行った<sup>12)</sup>。「歌を通じて効果のあったと生徒が認識した項目」では151人の回答があり、複数回答で、「英語のリズムやイントネーションが身についた」80人(53.0%)、「リスニング力がついた」76人(50.3%)、「文法力がついた」41人(27.2%)、「単語力がついた」39人(25.8%)などと学習効果があったと認識した生徒が多いという結果であった。しかし、「特に効果はなかった」と回答した生徒は10人(6.6%)いたと報告されている。李は、英語母語話者が腹式呼吸を行い、日本語話者が胸式呼吸を行っていることに注目し、英語の歌を授業に取り入れることで英語の発音やイントネーション、リズムの習得につながると述べている<sup>13)</sup>。今西は、英語の歌を歌うことでMurphey (1990) と Guerrero (1994) の言う無意識なメンタルサークルであるDinを発生させ、学習者が聞いたこと、話したこと、読んだこと、書いたことなどの脳内練習に繋がると述べている<sup>14)</sup>。

小学校課程の英語の歌に関する研究では、英語らしく歌うにはどのような指導を行えばいいのかを対象としたものが多く見られた。また、中学生あるいは高校生を対象とした研究では、その多くが英語学習の動機付けに繋がることや学習者の技能の向上に繋がるといふまとめをしている。

しかし、英語の歌は「歌」であり、しっかり意味を理解した表現ができる歌唱指導が大切である。作曲家は歌を通して、何らかのメッセージを伝えようとしている。つまり、詩に込められたメッセージを表現する歌唱にもっと注目すべきだと考える。

### 4. 英語の歌の指導例

英語の歌唱指導の一例として、NHK 高校講座音楽Iを例に取り上げたい<sup>15)</sup>。馬淵は約9分30秒のラジオによる指導で、兄妹デュオのカーペンターズの「Sing」とサイモンとガーファンクルの「明日へ架ける橋」の

表2 歌唱指導例

指導項目及び指導内容	配分時間
Part 1 カーペンターズの歌「Sing」	4分42秒
カーペンターズが歌う英語の歌「Sing」を聴く	3分45秒
「sing」の説明を聞く	1分12秒
歌うときのポイントを聞く	1分
英語の歌詞を一文ずつ聞いて、その対訳を聞き、詩の内容を把握する	1分
模範演奏を聴く	2分30秒
歌う時のポイントを聞く	2分10秒
ピアノ伴奏のみを聴いて歌う	2分30秒
Part 2 サイモンとガーファンクルの「明日へ架ける橋」	4分48秒
サイモンとガーファンクルについて説明を聞く	42秒
「明日に架ける橋」の歌詞の日本語訳を聞く	30秒
「明日に架ける橋」を聴く	3分26秒

2曲を取り上げている。授業は、教室での生徒を目の前にした指導ではないために、短時間での一方通行の説明と指導である。それぞれの指導項目及び指導内容とおおよその配分時間は、表2の通りである。

講師による授業をまとめると、次の流れである。

- (1) 曲を聞かせて、これから学習する曲はどのような歌なのかを知る。
- (2) 作詞、作曲は誰なのか、いつの頃の作品で、作品が発表されたときの時代背景など曲の紹介をする。
- (3) 歌を歌うときに注意することやポイントとなることを説明する。
- (4) 英語の歌詞を一文ずつ聞いて、その対訳を聞いて、詩の内容を把握する。
- (5) 模範演奏を聴き、その後模範演奏者からポイントを聞く。
- (6) 一番盛り上がるところで気持ちの高揚や音が高くなるのに合わせて腹式呼吸を意識し、声をふくらませて歌うことなど、その曲の重要なところや歌唱法について、講師から説明を聞く。

NHK 高校講座音楽Iでは、講師は、「“make it simple”

から始まるメロディーで、音が高くなっていくところですが、気持ちの高揚や音が高くなるのに合わせて、声を大きくしていきます。そのとき、余計な力を入れずに脱力し、腹式呼吸を意識して声をふくらませるようにしましょう」と述べ、「Sing」の作曲者が表現し、重要なところだと解説している。この曲の歌詞とそれに乗せたメロディーに注意させ、どのように「表現」すれば作曲者のメッセージが伝わるかを説明している。実際の授業では、演奏しているカーペンターズや、またサイモンとガーファンクルについて知っていることを発表させたり、「Sing」や「明日へ架ける橋」を聴いた後の感想や、そして盛り上がるころなどを話し合わせたりして、学習者の主体的学習を促しながら授業を進めることになる。

#### 4. 1. 歌詞とメロディーの関係

2000曲以上の童謡を作曲した中田喜直は、歌詞とメロディーの密接な関わりが重要なことと考えていた。中田喜直を研究した薩摩林は、詩と音楽との関わりについての彼の考え方を次のように紹介している<sup>16)</sup>。

自分は、童謡を単に子どものためという意識はなく、まして子どもがよるこぶかと媚びるのではなく、その詩と、詩を形成しているコトバに一番ふさわしい音楽を作るように努めている。

すなわち、歌唱とは歌詞の内容や曲想に関心を持ち、それらをしっかり理解し、その思いをメロディーに載せた作曲者の想いを曲にふさわしい音楽で表現することである。

NHK が東日本大震災の復興支援プロジェクトとして作成した「花は咲く」の18小節に注目すべき箇所がある。

#### 譜例1 「花は咲く」

だ れ か の う た が き こ え る  
だ れ か の お も い が み え る

1番では、「だれかのうたが」と「きこえる」の間に4分休符があり、誰かの歌が聞こえると歌っている。しかし、2番では譜面通りに歌った場合、「だれかのおもい がみえる」と歌うことになる。「がみえる」という表現は、日本語では意味をなさない。日本語話者や日本語学習者には、奇妙に聞こえる表現である。従って、楽譜通りに歌ったとしても彼らは当然、「だれかのおもい がみえる」という意味であることを理解して、実際にあるいは頭の中でそのように歌っている。しかし、日本語を学習していない人たち、あるいは初級段階の人には、「がみえる」が正しい日本語表現だと思い、楽譜通りに「だれかのおもい がみえる」と歌うことに何の違和感も覚えることはないだろう。歌詞を正しく理解し、表現することは、歌唱指導では基本的なことであり、重要なことである。

英語の歌の歌唱指導で、「英語らしく聞こえる」とい

う言い方がされるが、それは英文の意味を理解して正しい発音で歌わせることに主眼を置かなければならない。発音だけでなく、歌詞である詩を理解することで表現力も増していく。オリジナルCDでその歌を聴き、演奏をまねるだけでは作曲家、作詞家、また演奏者の伝えたいことを理解した歌い方にはならない。そのような歌い方となった表現理由までを理解させて歌わせることが、歌唱指導では大切である。

‘外国語のように聞こえる’と言えば、お笑いタレントのタモリが完成させた、デタラメな外国語である、「ハナモゲラ語」がその代表と言える。彼の「4ヶ国語麻雀」は、複数のYouTubeサイトで見ることができ<sup>註2</sup>。それぞれの言語には、その言語固有の子音の組み合わせや調音がある。彼はそれらを駆使して、全く意味のない言葉のやりとりを優れた演技力により、現実的なやりとりであるかのようなストーリー展開をさせている。その言語の音声の特徴と思われる発音を取り入れると、ある特定の言語であるかのように認識することができる。

しかし、‘英語の歌のように聞こえる’では、英語を学習したとは言えない。英語の歌を歌う者もその歌を聞いた者も、両者が「まさしく英語の歌」であると理解できなければいけない。

#### 5. 英語科との協働

現在使われている音楽科の教育芸術社の教科書『中学生の音楽 2・3 下』平成28年度版を使って、英語科とどのような共同作業があるのかを考察したい。教科書では、ビートルズの「Yesterday」を題材にしている。「Yesterday」は、ポール・マッカートニーが作詞・作曲した曲で、1965年にシングルレコードで発売された。この曲は、数多くの大物シンガーに影響を与え、史上最もカヴァーされた曲としてギネスブックで認定されるほど、世界中で愛され歌われている曲である<sup>註3</sup>。授業での歌唱指導の流れは、すでに「4. 英語の歌の指導例」で説明している。音楽科の授業では、音を取

らせ、楽譜に載っている補助記号に注意させ、どのように歌うのか、表現すればいいのか、など歌唱指導に重点を置きたいと考え、それで、英語の歌詞指導を英語科に協力してもらえれば、より深い指導ができると考えている。NHK 高校講座音楽 I では、講師が「Sing」の英語の歌詞の日本語訳を 1 文ずつ読み上げて説明している。この方法では生徒は、それぞれの文章がだまかにどのような意味なのかを知ることができるが、十分に理解をしているとは言えない。

### 5. 1 「Yesterday」の歌詞指導

歌を歌う歌唱によって「表現」するために、歌詞の理解は欠かせない。「Yesterday」の歌詞は次の通りである。

Yesterday, all my troubles seemed so far away,  
 Now it looks as though they're here to stay,  
 Oh I believe in yesterday.

Suddenly, I'm not half the man I used to be,  
 There's a shadow hanging over me,  
 Oh yesterday came suddenly.

Why she had to go I don't know, she wouldn't say  
 I said something wrong, now I long for yesterday.

Yesterday, love was such an easy game to play,  
 Now I need a place to hide away,  
 Oh I believe in yesterday.

Why she had to go I don't know, she wouldn't say,  
 I said something wrong, now I long for yesterday.

Yesterday, love was such an easy game to play,  
 Now I need a place to hide away,  
 Oh I believe in yesterday.

Readability Index を使って英文を分析すると、英語母語話者の中学 2 年生から 3 年生レベルであり、読み易い歌詞である<sup>註4</sup>。総語数は 125 語で、1 回だけ使われている語は 64 語であり、全体の 49% の 61 語が繰り返し使われているという結果であった。第 5 連は第 3 連の、第 6 連は第 4 連の繰り返しとなっており、特に難しいレベルの語彙は使われていない。

第 1 連の日本語訳をインターネットで調べてみると、様々な訳文を見つけることができる。訳文は全てが意訳によるものであり、中学生にはなかなかイメージがわからないと思われる。しかし、短い文で構成されているために、単語や語句の意味、そして文法事項を簡単に説明することで、理解を深めることができる。例えば、表 3 に示す訳文を検索することができる<sup>註5</sup>。

表 3 「Yesterday」第 1 連の訳文例

原文	区分	日本語訳
Yesterday, all my troubles seemed so far away, Now it looks as though they're here to stay, Oh I believe in yesterday.	A	昨日は、悩みなんて遙か遠くにいたのに今はここにいるかのようで Oh, まだ昨日のような日を信じてる
	B	昨日は はるか遠くに思えたこの苦しみが 今は、こんな近くに居座っている ああ、昨日、僕はあれほど信じていたのに
	C	昨日は はるか遠くに思えたこの苦しみが

		今は、こんな近くに居座っている ああ、昨日、僕はあれほど信じていたのに
	D	昨日は すべての災いが遙か遠くにあったようなのに 今はここに災いが訪れているように思える ああ、僕は昨日の方を信じるよ

英和辞書に載っているような訳語を使って歌詞が日本語に訳されているのではないために、音楽の授業でそのまま生徒に伝えても原文の詩の意味に対する十分な理解には届かない。さらに、それぞれの英文に対する日本語の意味が分かっているにもかかわらず、それぞれの単語の意味が理解できていないのであれば、英語で歌詞の想いをしっかりと伝えることはできない。

例えば、特に意味を持たない冠詞や前置詞ははっきりと発音されない。一般的には、動詞や名詞、形容詞、副詞など実質的な内容を表す内容語がはっきりと発音される。また、しっかりと他者に発話者の想いが伝わるように、特定の語にアクセントを置いて強く発音することで強調する。したがって、英語の詩の理解を深める指導を通して歌詞に込められた想いを表現させるために、英語科との協力が必要である。

しかし、英語の歌は、現在、学習単元に含まれていない。先行研究に見られるように、英語の歌の指導は正課授業の付加的役割を担い、英語学習の動機づけや発音やリズムの理解に結びつけること、また今まで学習したことがどこまで応用できるかを確認することが主な目的である。平成 29 年の学習指導要領の改訂によって英語科も、新たに仮定法が高校課程から降りて

きており、音楽科同様限られた授業時間で、多くの構文や文法事項を扱わなければならない。限られた授業時間を音楽科と英語科で協力し、高い効果を上げるために明確な指導の区分調整が必要である。

## 5. 2. 英語科に特化した指導内容

英語科の授業では、歌詞指導を担ってもらうのが理想である。「Yesterday」の歌詞指導で考えてみたい。英語の歌の指導は元来、正課の単元ではないため短い時間での説明とならざるを得ない。韻律的なこと、また語句、構文、文法項目の抑えるべき点を 10 分程度で終わることを基本的に指導内容をまとめてみた。歌詞を声に出して音読すると表 4 のように、定型による韻律の響きが気持ちよく感じる。「Yesterday」の歌詞の特徴を音節数と曲旋律で調べてみた結果が、表 4 である。

表 4 音節数と旋律の形式

	1 行目	2 行目	3 行目	旋律の形式
第 1 連	12	9	8	A
第 2 連	12	9	8	A'
第 3 連	12	12		B and B'
第 4 連	12	9	8	A'
第 5 連	12	12		B and B'
第 6 連	12	9	8	A'

音節数に関しては、第 1 連、第 2 連、第 4 連、第 6 連は 12 音節、9 音節、8 音節で構成され、第 3 連と第 5 連は 12 音節と 12 音節で構成されている。また第 3 連と第 5 連、そして第 4 連と第 6 連は同じ歌詞の繰り返しで、極めて洗練され、統一感のある歌詞の構成となっている。旋律の形式は、大きくパターン A と B の 2 つに分けられ、詩に合わせる形で複雑な構成になっていないことが分かる。

## 5. 3. 英語科による具体的な指導内容

英語科の専門性を考えると、発音、語彙説明、文法

事項の説明の3点の指導を担ってもらいたい。発音では、単語だけでなく、文章全体の発音指導も含まれる。

(1) 韻に関することでは、第1連、第3連、第4連、第5連、第6連は [ei] の韻で、第2連は[i:] の韻で、脚韻が踏まれていることに注意をさせることが大切である。詩では韻を踏むことにより、詩全体にリズムが生まれ、心地よい響きを作り出している。脚韻は、各行の末尾に同一もしくは類似の音韻を配置して互いに響き合わせ、また次に来るべき行末音をひそかに予想させる技法でもあることにも触れることが必要である。

(2) 特に確認しておきたい単語は、yesterday, suddenly, used to である。yesterday, suddenly は文の初めにきているだけではなく、時間を表す語であり、詩の中で極めて重要な意味を持っているため特に確認しておきたい単語である。また、used to の used は一般動詞 use の過去分詞ではなく、to を伴って助動詞としての働きをする語句である。したがって、発音が[ju:st]と発音されることはしっかり抑えたいところである。

(3) 語や語句に関する内容では、次の5項目である。

1. "believe" と "believe in" の違い
  2. "not half" の "half" の意味と用法
  3. "used to" の意味
  4. "She wouldn't say" の "wouldn't" の意味
  5. "long for" の意味
- "believe" と "believe in" の違いと "She wouldn't say" の "wouldn't" の意味は、詩を理解する上で重要な語句であり、しっかりと抑えていなければ、詩に込められた想いを表現することができない。また、half は、ここでは、not complete, imperfect, partial の意味であること、また all と同じように冠詞の前でも使われることのある語であることも説明する必要がある。

(4) 文法事項に関することでは、次の2項目である。

1. "as though they're here to stay" が仮定法であること

2. "the man I used to be" が後置修飾の接触節だということ

仮定法は、平成29年公示の学習指導要領の「2内容(1)英語の特徴やきまり」に関する事項で高校課程から降りてきた、新しく学習することになる文法事項である。その扱いは、「仮定法のうち基本的なもの」としている。しかし、3年生の後半での学習事項となっている。開隆堂『Sunshine』では Program 7 で、東京書籍『New Horizon』では Unit 6 で、三省堂『New Crown』では Lesson 6 で扱われ、ほとんどの教科書で2月から3月にかけて学習する単元であり、事前の説明は欠かせない。

本来、英語科で「英語の歌」は、正課の単元で扱われた内容ではなく、いわゆる飛び入り教材となるために楽しく歌うことを意識した指導で十分である。従って、細かい文法指導にならないようにすることにも気をつける必要がある。

#### 5. 4. 歌詞指導を開始する時期

外国語の歌唱指導の単元では、「帰れソレントへ」と「Yesterday」がひとまとまりとして扱われ、配分時間は3時間で予定している。音楽の授業では、それぞれの曲だけに専念し、授業時間いっぱい歌唱指導しているのではない。楽器の演奏や鑑賞もその授業時間に実施される。3時間という短い授業の中で生徒たちが、「Yesterday」の詩を、また作曲者の想いを表現できるまで歌唱力を伸ばすのは、かなり無理がある。しかし、授業を始めた段階で、それらに対する理解が十分であればスタート段階で、歌唱指導に力を注ぐことができる。歌詞を暗記するくらいまで、読み込んでいれば、歌声も必然的に大きくなる。

そこで、「Yesterday」の指導を「帰れソレントへ」を教え始めた段階で同時に始めることができれば十分であると考えられる。音楽科は週に1時間の授業である。一方、英語科は週に4時間である。音楽科の3回の授業の間に英語科は、9時間から12時間授業で指導ができ



ることになる。英語科の第1回目の授業で「Yesterday」の発音、語彙、文法事項を10分程度行い、それからの授業の始めに1回か2回、「Yesterday」を音読指導する時間を取ることで、生徒は歌詞を暗記することができる。歌詞への理解と暗記がどの程度進んでいるのかが、声の大きさや歌唱力に大きな影響を与える。英語科でも授業時間の確保は、厳しいところではあるが、可能な限りの協力を願いたいところである。

## 6. まとめ

音楽科の学習指導要領の目標には、音楽活動の楽しさを体験することで、音楽を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うことが目標に挙げられている。音楽科の教育は、歌を歌う歌唱や楽器を使つての演奏による「表現」の分野と、音楽を聴くという「鑑賞」の2つの分野に大きく分けられるが、歌唱による活動で「創意工夫を生かした音楽表現をする」ためには、英語の歌詞の意味をしっかりと理解していなければ良い結果は得られない。音楽科は、表1に示した限られた授業時間数で、英語の詩の理解と歌唱指導をすることは、極めて厳しいのが現状である。

そこで、音楽科と英語科がそれぞれの教科の特性を生かし、協働で指導に当たることができれば、歌唱力が増すことが可能になる。両教科の特色ある指導で、生徒たちは、自らが曲想を理解し、表現を創意工夫することができると思う。

現在、英語の教科書でも英語の歌が巻末に付録として載せられている。現在掲載されている曲は、音楽科の教科書で扱う歌とは異なっている。今後改訂される時に、音楽科と英語科が同じ曲を扱うことになれば、英語科に協力を求めやすくなり、その結果、音楽科の目標に掲げられている「曲想を理解し創意工夫を生かした音楽表現をすること」が可能となってくる。また多くの英語の歌に関する研究で証明されているように、英語のリズムやイントネーションへの理解も増し、リ

スニング力を高めることもできる。音楽科にとっても、英語科にとってもメリットこそあれ、デメリットは少ないと考える。

今後、どのような曲が中学生にとって理解しやすく、歌いやすいのかを研究していきたい。

## [参考文献]

- 1) Murphey, T.(1990). The song stuck in my head phenomenon: A melodic Din in the LAD? *System*, 18(1), 53-64.
- 2) de Guerrero, M. C. M.(1994). Form and functions of inner speech in adult second language learning. In Lantolf, J. P. and G. Appel(eds.). *Vygotskian approaches to second language research*. 83-116. Norwood, N.J.: Ablex Publishing Company.

## [註]

- 註1:平成28年度版中学音楽2・3下(教科書番号826)のみ、令和3年度も1年間使用される。
- 註2:タモリの4カ国語麻雀  
<https://www.youtube.com/watch?v=yqr3S6ULZL8> (令和3年11月8日検索)
- 註3:ビートルズの「Yesterday」はどのように生まれたのか:史上最もカヴァーされた曲  
<https://www.udiscovermusic.jp/news/beatles-yesterday-best-song-ever-written> (令和3年11月10日検索)
- 註4: Readability Formulas :  
<https://readabilityformulas.com/free-readability-formula-tests.php> (令和3年11月7日検索)
- 註5:表3の訳文検索  
 訳文 A 「Yesterday – Beatles 歌詞と和訳と解説」  
<http://caffe.takat33.com/2016/08/yesterday-beatles.html>  
 (令和3年11月8日検索)  
 訳文 B 「Beatles (ビートルズ) Yesterday 歌詞 和訳」  
<https://ameblo.jp/lyricsgaga/entry-11791994204.html> (令和3年11月8日検索)

訳文 C 「＜歌詞和訳＞Yesterday－The Beatles 曲の解説と意味も」

<https://lyriclist.mrshll129.com/beatles-yesterday/> (令和 3 年 11 月 8 日検索)

訳文 D 「ビートルズ【Yesterday】歌詞を和訳して解説！失恋ソングと思いきや...亡くなった母の歌って本当？

<https://otokake.com/matome/DkPKgS> (令和 3 年 11 月 8 日検索)

#### [引用文献]

- 1) 山田浅蔵 (1991) 『実践音楽教育学』音楽之友社, 209
- 2) 関間豊吉 (1991) 『音楽科教育学概論』音楽之友社, 114
- 3) 関間豊吉 (1991) 『音楽科教育学概論』音楽之友社, 115
- 4) 文部科学省 (2017) 『学習指導要領 (平成 29 年公示) 音楽科』
- 5) 文部科学省 (2017) 『学習指導要領 (平成 29 年公示) 英語科』
- 6) 教育芸術社 「年間学習指導計画作成資料 (平成 29 年度)」 [https://data.kyogei.co.jp/data\\_room/nenkei/chu\\_keikaku28\\_2/h29\\_nenkei\\_3a.pdf](https://data.kyogei.co.jp/data_room/nenkei/chu_keikaku28_2/h29_nenkei_3a.pdf) (令和 3 年 10 月 3 日検索)
- 7) 文部科学省 (2017) 『学習指導要領 (平成 29 年公示) 英語科』
- 8) 高橋美由紀ほか (2021) 「外国語教育・音楽教育における「英語の歌」の指導—教科間の連携と「音韻構造」に焦点をあてて—」『教科開発学論集』9, 33-43
- 9) 丸山修 (2018) 「英語の歌における音節の扱い方と小学校外国語科での活用への示唆」69, 203-212
- 10) 西尾洋 (2012) 「外国語 (英語) の発話教育を音楽言語から捉える試み」『岐阜大学教育学部研究報告. 教育実践研究・教師教育研究』23, 55-60
- 11) 滝口優 (2020) 「英語教育における歌の意義と課題」『白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所研究年報』25, 29-37
- 12) 甲斐順 (2018) 「「中学校で学習した英語の歌」追調査: 高校 1 年生に対するアンケート結果の分析から」『言語表現研究』34, 61-75
- 13) 李春喜 (2017) 「初めての英語発音指導—英語の歌を歌おう—」『関西大学外国語学部紀要』16, 61-75
- 14) 今西達也 (2021) 「英語の歌に対する学習者の意識と Din の発生—楽しい歌か、役に立つ歌か—」『京都教育大学紀要』138, 145-152
- 15) 馬淵明彦 「NHK 高校講座音楽 I、第 2 1 回英語の歌を歌う～楽しく歌おう (4)～」 [https://www.nhk.or.jp/kokokoza/radio/r2\\_music/archive/chapter021.html](https://www.nhk.or.jp/kokokoza/radio/r2_music/archive/chapter021.html) (令和 3 年 10 月 10 日検索)
- 16) 薩摩林淑子 (2016) 「中田喜直の童謡作品の関学的特性と現代における意義—楽曲分析を通して—」『鎌倉女子大学紀要』23, 18

#### [教科書]

- 『中学生の音楽 2・3 下』(2016) 教育芸術社  
『Sunshine 3 年』(2021) 開隆堂  
『New Crown 3 年』(2021) 三省堂  
『New Horizon 3 年』(2021) 東京書籍

**Collaboration between Music and English Departments  
through the Teaching of English Songs  
— Focusing on Junior High School Courses —**

Chihiro KIYONAGA    Katsumi KIYONAGA

Abstract:

Both music and English textbooks deal with English songs. They are taught in regular lessons in music, but are optional learning items in English. Much research has been done on English songs, and their learning effects have been proven to be great. If the music department and the English department work closely together, the limited number of short class hours can be effectively utilized, and even greater learning effects can be expected. In this study, we considered the teaching contents for the English department which are required by the music department, taking “Yesterday” composed by The Beatles as an example.